

第21回 皮膚科の臨床 優秀論文賞発表

本誌編集委員会では、昨年（第66巻、2024年）に掲載されたものを対象に優秀論文の選考を行ってまいりましたが、この度、下記論文に第21回「皮膚科の臨床 優秀論文賞」を授与することに決定いたしました。

Lipid Transfer Protein (LTP) を原因アレルゲンとして発症したと考えたブドウアレルギーの1例

—本邦ではまれな発症の LTP Syndrome に関する文献的考察を含めて—

原田 晋ほか（はらだ皮膚科クリニック）

36歳、男性。果実シャーベットブドウ味摂取直後にアナフィラキシー症状を発症した。プリックテストの結果より、ブドウおよびブドウ製品全般に対するアレルギーと診断した。さらに、ブドウアレルギーの原因抗原は lipid transfer protein (LTP) であると考えられているが、自験例においても諸検査によって LTP の感作が確認された。日本人においてはブドウアレルギーの発症は極めてまれであるが、その理由として LTP は主に果物類の果皮の中に存在しているが、日本人は通常果物類の皮を剥いて果肉だけを食するため LTP の感作は生じにくいとの食文化の違いが考えられている。

（第66巻 第5号、591-596頁、2024年）

選考評

原田 晋先生は2008年に続いて、今回2回目の受賞となる。これは本誌優秀論文賞においては初めてのことであり、それ故決定には慎重さを要したが、やはり抜きんでて優れた論文である以上、今回も受賞とすべきと判定した。前回受賞時の選考評においては、「的確な臨床判断、臨床医の立場で最善を尽くして根拠となる科学的データを得る努力、無駄のない論文記述、いずれも臨床論文のお手本となるような優れた内容と姿勢であると高く評価する」と記載したが、今回も同様の姿勢が貫かれた論文である。ブドウアレルギーの原因アレルゲンとして、lipid transfer protein (LTP) を中心とした詳細なデータが示されたうえで深く考察がなされているが、LTP の感作後、発症に至る段階にはまだ解明すべき点があることも示唆する興味深い論文である。論文の質、臨床的有用性の観点から、優秀論文賞に相応しい論文であると評価する。

受賞のことば

この度は2024年度優秀論文賞に選出していただき、誠に有難うございました。

今回、lipid transfer protein (LTP) を原因アレルゲンと考えたブドウアレルギー症例を供覧するとともに、ヨーロッパ特に地中海領域では極めてメジャーなアレルゲンである LTP によるアレルギーの発症が本邦ではまれであることを報告しました。その原因として、LTP は主に果物類の果皮の中に存在していますが、日本人は通常果物類の皮を剥いて果肉だけを食するため LTP の感作は生じにくいとの考察を加えました。しかし、近年本邦でも皮を剥かずにそのまま食べることができるブドウが流通しており、食文化の変化によりアレルギーの発症形態にも推移が生じてくると予想されますので、今後このような点にも注視していく必要があると思われます。

ただし、私は今年で70歳を迎え、老齢の域に達します。個人的にはこのような賞を頂戴することは大変名誉であり嬉しいのですが、皮膚科全体から考えると必ずしも喜ばしいことではないように思います。来年以降は私のような高齢者が受賞することのないように、ヤングドクター達の大いなる奮起に期待しています。



- 受賞論文の筆頭執筆者には、賞状ならびに副賞として金一封・記念品を贈呈いたします。
- 本誌編集委員会では今後も優秀論文賞の選考を行ってまいります。投稿規定を熟読のうえ、奮ってご投稿ください。